愛隣幼稚園

園だより

22. 2月

子どもに渡すもの

昨日、車を運転中、道路際の民家の庭に小さな花をたくさんつけた木があることに気付きました。車がその家の前を通り過ぎる時には、その花が梅であることが分かりました。もうすぐ暦の上での春がやってきますが、目に見えるところにももう春は来ています。四季のある日本、冬から春への移り変わりは、私たちの心を躍らせてくれます。何もなくなったように見えるところから新しい命が生まれてくる様(さま)に、大地のエネルギーを感じます。寒い寒いと閉じ籠らずに、子どもたちと一緒に風や光の変化を感じ、新しい命の芽吹きをキャッチする外歩きを楽しみたいと思います。

さて一方では、毎日毎日更新されていく感染者数の多さに、明日は私が感染者になってもおかしくないと思いながら、何をするにも気を遣う生活が続いています。更にテレビやネットに流れてくるニュースも心に痛みを覚える内容ばかりが目立ち、気持ちは塞いでしまいそうです。先日、ニュース映像の中に外国人の方が職場で日本人から暴行を受けている動画が流れました。あえてその動画を流す理由が分かりませんでした。私の心が痛みを覚え、目を背けていました。その動画は翌日も流されていました。私はチャンネルを替えました。それを見ることに私が耐えられなかったからです。同時に、子どもたちも目にするニュースの中で流される暴力映像でしたから、子どもたちはこれを見ているのだろうか、見た子どもたちの心には何が刻まれるのだろうか、と不安になりました。言葉だけで内容は伝わります。敢えてこのような映像を流す必要はないと私は考えています。そんな時、子どもの傍らにいる大人の態度は重要です。見せるのなら説明が必要です。見せないという選択肢もあります。他にも子ども向けではない TV アニメ（新しい鬼滅の刃に“遊郭編”というサブタイトルがついていることに私は驚き、それが深夜の放送であることにほっとしました。観ていないので無責任な評価はできませんが、“遊郭編”が子ども向けでないことだけは確かです。）、ネット動画、スマホやタブレットのゲーム、全て必要でないとは言いませんが、使い方、渡し方（与え方）を誤れば、取り返しのつかないことになる危険性もあります。ネット動画やゲームは「楽しい」「面白い」ものです。一種の「快楽」を得ることができます。「楽しい」「ワクワクする」「スッキリする」「リラックスする」「刺激的」など、快楽にはいろいろな種類がありますが、ゲームや動画でこれが得られることを経験すると、次第に子どもたちはこれに快楽を求め、夢中になっていきます。中山秀紀氏（精神科医）は著書（スマホ依存から脳を守る）にこのように書いています。〖なぜ、こんなにゲームが流行るのか。それは手軽に、確実に、格安に、(一見)安全に、疲れていても、雨の日でも、夜でも「快楽」を得られるから。そして視点を変えると、これを与える親にとってもこれは便利で最高のモノ。これを与えれば「おとなしくしてくれる」「喧嘩をしない」「飽きにくいので比較的格安」「かさばらない」「電車の中でも、レストランでも、親が疲れていても、おとなしくしてくれる」モノだから。〗ドキッとします。もはやネットもスマホもゲームも子どもたちの生活から切り離すことはできません。だとすると、子どもとそれらとの付き合い方の責任は大人にあることは明らかです。

子どもたちの脳は様々な刺激によって成長・発達していきます。刺激は栄養と言ってもいいかもしれません。だとしたら、私たちは子どもたちの成長に本当の意味で栄養になるものを見せたい、聴かせたい、味わわせたいと思います。豊かな体験を通して興味関心を広げたい。だからこそ、暴力・暴言・差別・破壊・憎悪・・・などではなく平和や平等、調和・尊重・希望や愛を親から子へ手渡していきたいものです。

殴られて大きくなった子どもは、力に頼ることをおぼえる。友情を知る子どもは、親切をおぼえる。安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる。可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることをおぼえる。（ドロシー・ロー・ハルトの詩から抜粋）